



研究員号① 令和5年度研究テーマについて

昨年度は、「一人一人が主体性を発揮できる学校づくり～子どもの気づきを起点とした学びを目指して」をテーマに研究を行いました。子どもの気づきを起点とした学びを進めることで、子どもたちは自分事として学びに向かう姿が見られました。子どもが主体性を発揮する姿を教師が見取り、価値づけをすることを意識して研究実践を行ってきました。一方、子どもたちが自分について力を自覚して使う、教科の本質に迫る学びに夢中になる、といった学びに向かう主体性を発揮できていたのか、という点では課題が残りました。そこで、学びに向かう主体性を発揮するには何が必要なのかと考えました。

子どもの気づきを起点とした学びを土台として他者と共に学ぶ過程で、考えに広がりや生まれたり、考えが深まったり、新しい発見があったりするという、充実感、達成感、満足感などの学ぶ喜びを味わうことが必要なのではと考えました。そこで、本年度は対話的な学びに着目することにしました。

【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

文部科学省資料「主体的・対話的で深い学びの実現（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）」より

対話の対象として、「教材・資料」「他者」「自己」があるとされています。これらの対象と自ら関わりを求めていくことで、自己の考えを広げ深める対話的な学びが実現でき、学ぶ喜びを感じ、学びに向かう主体性を発揮できるのではないかと考えました。

以上の事から、グループの研究テーマを

一人一人が主体性を発揮できる学校づくり～子どもの対話的な学びを支える～

としました。対話的な学びのある授業をどう構築するのか、対話的に学ぶ子どもの姿をどのように見取り評価するのか等、対話的な学びを支える、伴走者としての教師の関わり方に焦点を当てて研究を進めていきます。

対話的な学びの実現により、学ぶ喜びを感じる

子どもの気づき
 「なぜ?」「きっと…」
 「どういうこと?」
 「どうすれば…」
 「分からない」

そんな考え方もあるんだ!

そういうことだったのか!

一緒に考えたらできるようになった!

〇〇さんの考え方が参考になった!

学びに向かう主体性

対話的な学びを支える教師の関わり方

中学校国語

柿本 尚之

小学校国語

谷江 久美子

中学校英語

大橋 敏明

5人がそれぞれの分野で研究を進めていきます。

小学校算数

澤田 雄輝

中学校社会

坊 達也

次回の研究員号で、個人研究の詳細についてお伝えします。

